援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		毎週、活動内容を変えて子ども達が選択できるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	3	2	活動の中で時折、地域の人（店員さん）と交流はあるが、限定的である。	地域交流する機会がほとんどないため、長期休み期間を利用して様々なイベントや活動を企画していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		事業所や分野ごとによって対応は異なるが、お互いに情報共有を図りながらよりよい支援を行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	必要に応じて情報共有を行っている。法人内の場合は、きちんと情報共有が行われている。	対象児がいる場合は、情報共有と相互理解を図る。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3		該当者なし。対象児がいる場合は、情報共有と相互理解を図る。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	3	2	法人内でスーパーバイズや助言や研修を受ける機会がある。	必要に応じてスーパーバイズからの助言、研修を依頼し、スキルアップを図る。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		事業所独自での地域交流はほとんどできていない。要望(必要性)もあれば地域住民も参加できるイベントなどを検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		LINEやHUG（アプリ）を用いて、日頃の様子を写真や文章で伝えている。	仕事の都合などで会う機会が少ない保護者様の場合、モニタリングなどの面談機会しか直接話すことができない。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	保護者会の中で、保護者向け研修を実施している。	保護者会は法人全体で年に１回しか実施できていない。定期的な研修の開催ができないか検討していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			